

■ワトモスとは？

高齢化社会の加速する中で「和室」が減少し、フローリングとクロス壁を使用する「洋風インテリア」が現在の室内装飾のスタンダードとなりつつあります。しかし、私たちの心の中には「和」に対する憧れが無くなったわけではないと思います。BIDOOR(ビドー)では室内に「和」を「灯す」ため、新しく「ワトモス」というインテリアコンセプトを立ち上げます。インテリア関連業に携わっておられる多くの方に向け、「和の魅力」を再発見していただけるきっかけになれば幸いです。

ワトモスの語源

「和」を「灯」す

「和」の雰囲気(アトモスフェア)をまとう

「和」を「共」にする

「和」の「友」

■「和」とはいったい何か？

今後も多くの人を引き付け、広がりを見せ続ける話題の一つです。しかし一方で、建築家や評論家、文化人の方々の中でも「和を感じる要素には一定の方向性がある」という考え方が圧倒的に多いのも事実です。インテリア関連部品メーカーである BIDOOR(ビドー)はその方向性に目を向け、以下の3つのコンセプトで「和の美的要素」を念頭に入れた商品開発をしております。

①コンセプト 素材の美【材】

素材の美しさを活かした室内部品には金属や天然木が古来より多く使われています。真鍮(しんちゅう/黄銅)や銅などは生地磨きで仕上げることで素材の光沢や質感を出したり、天然木では木目柄や材質の色、質感をそのまま使う工夫がなされてきました。BIDOOR(ビドー)は素材の持つ美しさをできるだけ活かした製品開発を手掛けていきます。

②コンセプト 色彩の美【彩】

特徴的な日本様式のあり方として「ハレ」と「ケ」と言うものがあります。華やかな祭などの非日常を示す「ハレ」と、落ち着いた日常を示す「ケ」は、互いに引き立て合い、譲り合うことで初めて意味を持つと言われてしています。BIDOOR(ビドー)は壁、ドア、天井、床など、室内を構成する部材と引き立て合い、調和を保つようなカラー展開の製品や「インテリアの差し彩(いろ)」として使用できるカラー製品の製作をしていきます。

③コンセプト 調和の美【調】

格子模様などに見られる形状の繰り返しデザインや、書道、華道、石庭などにおけるシンプルで無駄を省いた表現方法は「和」を象徴する調和デザインとして世界的にも高く評価されています。格子や組子、障子などにも、その簡素でありながら調和の取れたデザインが多く使われています。BIDOOR(ビドー)は洋風化するインテリアのトータルイメージと「共存できる和のテイスト(※1)」を持った製品を製作していきます。

■開発製品

・天然木製シリーズ【材】

多くの建築家の「和の表現」には「日本固有の自然尊重の考え方」から転じた、「天然木材の使用」が欠かせない要件の一つとなっています。木目や色彩によって素材の美しさを出しやすい木製部材。BIDOOR(ビドー)ではこの天然木に着目し、中でもできるだけ合板ではなく無垢材にこだわり、製品の手触りや見た目には素材の持つ自然さをそのまま活かした製品を取り揃えています。

・淡麗パールシリーズ【彩】【材】【調】

乳白色で優しい色のパールメッキ。従来のパールメッキは腐食しやすい「銀」を使うためサビ(硫化)が弱点でした。しかし、BIDOOR(ビドー)では金属がもともと持っている性質と原理を応用し、独自の多層コーティングによってパールメッキの変色やサビの危険性から製品を保護することを可能にしました。生地の金属質感や銀の持つ元素そのものの優しい美しさを活かした製品を作っています。

・クロカナモノ&シロカナモノシリーズ【彩】【調】

「黒」や「白」はどちらも忠誠心や誠実さを表す意味があり、古来から儀式に使われていることから、高級感や格式を示すベーシックカラーとして幅広く使われています。BIDOOR(ビドー)では様々な材質や形状に白色と黒色のラインナップを取り揃えています。塗装品質でも多層コーティングやプライマー処理などによって従来よりも高い信頼性を実現しています(※2)。

・モダンカシューシリーズ【彩】【材】【調】

日本で古くより生活の中に使われてきた塗料が「漆(ウルシ)」。保存性能も高く伝統工芸にも使用されますが、現在では仕上がりの風合いが似た「カシューウルシ(※3)」が代用として多く使われています。BIDOOR(ビドー)では独特の柔和な質感による「手触りの和」やウルシ調カラーと木目の浮き出る材質による「見た目の和」にこだわったカシューウルシ製品を作っています。

・ほのか引手シリーズ【彩】【調】

華道に「真副控(しんそえひかえ)」という言葉があります。主題(主役)となるもの、主役を引き立てるもの、調和をとり整えるもの、これら全体でバランスをとることを基本とする考え方で、室内デザインにも多く取り入れられています。BIDOOR(ビドー)ではきめ細かい粒子の輝きがアクセントにもなる、パール調塗装製品を取り揃えています。「ほのかな香り」のような優しい「控(ひかえ)」となり、インテリア全体の調和を支えることを目指します。

部屋の全体感を変えずに金物部品でインテリアのちょっとした演出が可能だとBIDOOR(ビドー)は考えます。昔から日本では、控えめで深い精神を有しているものを美徳と考えてきました。また芸術面においても調和の取れた簡素な表現で「美」を表してきました。「奥ゆかしさ」や「つつましき」など「和」を象徴とするイメージを洋室に取り入れるために、小さな金物をさりげなく添えるのも今までになかった新しいセンスのひとつでしょう。また、「陰翳礼讃(いんえいらいさん)(※4)」という言葉があるように、暗闇に映える小さな灯火(ともしび)のように、洋室にマッチする美しい和金物を使うのも良いでしょう。

BIDOOR(ビドー)は現代インテリアの洋室化に「共存できる和のテイスト(※1)」をインテリア・家具金物分野で推進していきたいと考えています。シンプルで飽きの来ない「和テイスト」の形状に、現代インテリアとマッチしたカラーバリエーションの商品展開を行ってまいります。インテリアにマッチした「和」とはいったい何か?をBIDOOR(ビドー)はこれからも考え続けます。

BIDOOR(ビドー)ではインテリアに「和」を「灯す」、ワトモスコンセプトにご賛同いただける皆様のご意見を心よりお待ちしております。

■備考

※1. 和テイストの謎

ホテルオークラのエントランスロビー(2015年8月末より改築)のデザインは世界的なデザイナーから「和」を感じる最も重要な近代的空間設計の一つとして注目されています。しかし、そこには提灯(ちょうちん)や行灯(あんどん)、神輿(みこし)、桜などの「分かりやすく記号化された和」は使われておらず、洗練された光と影のバランスとミニマルデザインの織り成す調和空間で構成されています。また、人気アーティストである「Perfume(パフューム)」のライブステージは世界中から、最も「和」を感じる近代的なパフォーマンスの一つとして注目されています。しかし、その内容は日本舞踊や音頭、神前作法のような「象徴的な和風の動作」ではなく、洗練されたコンビネーションと調和の取れたシルエットによって成り立つ、全く新しい世界観で構成されています。世界から見た「和テイスト」が単に花などの和柄や毛筆のタッチなどに代表される「商業化された和のイメージ」だけではなく、調和とバランスの中に息づいているとも言えるでしょう。ワトモスの目指す生活空間と共存できる「和」のありかたの秘密が、そこに隠されているのかもしれませんが。

※2. 塗装の信頼性について

金属下地へのプライマー処理により、通常より塗膜の密着性を強化(当社比)しています。また、コートホワイト・コートブラック塗装製品では塗装硬度:4H(大阪市立工業研究所調べ「JIS K5600-5-4」塗料一般試験方法-第5部塗膜の機械的性質-第4節:引っかかり硬度(鉛筆法)参照)を実現。更に、抜き出し検査(塗装の付着性をJIS規格に則ったクロスカット試験にてテスト)により、品質の維持に努めています。

※3. カシューウルシとは?

カシュー樹脂塗料のこと。カシューの木の実(食用のカシューナッツ:Cashew)を原料として作られます。カシューは漆(うるし)の主成分に類似した化学式を持っているため、仕上がりの風合いが漆に良く似ており、現代では設備投資や管理に手間とコストがかかる漆の代用品として、幅広く利用されています。

※4. 陰翳礼讃(いんえいらいさん)とは?

日本の美の感覚を論じたもので、西洋では可能な限り部屋を明るくし、影や闇(陰翳:かげり)を消す事に執着したが、日本ではむしろ陰翳を認め、それを利用する事で陰翳の中でこそ生える芸術を作り上げたのであり、それこそが日本古来の芸術の特徴だという主張。

▼ワトモス特設ページ

<http://www.bidoor.co.jp/watomos.html>

▼ワトモスシリーズ印刷カタログ(PDF ファイル)

<http://www.bidoor.co.jp/bidoor/pdf2/watomos.pdf>

◆プレスリリースのお問い合わせ

株式会社 ビドー (インテリア・建築金物総合通販サイト ビドーパル 運営元)
〒537-0014 大阪市東成区大今里西 1-25-4
TEL : (06)6972-3824(代) FAX : (06)6974-3865(代)
広報担当 : 長野孝豊

通販サイト ビドーパル <http://www.bidoorpal.com/>
BIDOOR(ビドー) WEB サイト <http://www.bidoor.co.jp/>
お問い合わせメールアドレス info@bidoor.co.jp